

令和4年第2回教育委員会定例会 会議録

1 開催日時 令和4年2月8日（火）午後2時45分～午後3時30分

2 開催場所 第3委員会室

3 出席者

【教育長】 水田 博和

【委員】 浅井 敦臣

【委員】 大野 みどり

【委員】 小塩 泰代

【委員】 竹田 卓弘

【事務局】 教育部長	西野 正康
文化スポーツ部長	上田 敦
教育総務課長	兒島 康万
同 課長補佐	渡邊 直美
同 担当主査	加藤 恵子
学校教育課長	大城 達也
同 主幹	南 英雄
同 指導主事	村上 洋
学校給食課長	長江 泰典
文化財課長	村松 一秀
野外教育センター所長	木全 敦彦
同 主幹	西岡 靖成
文化・生涯学習課長	内藤 純子
スポーツ課長	金田 浩
図書館長	田中 裕子
食育推進給食会企画経営課長	生倉 勉

4 議 題

- (1) 春日井市学校保健結核対策委員会規則等の一部を改正する規則について
- (2) 春日井市学校給食運営委員会規程の一部改正について
- (3) 中学校の新しい制服デザインの最終選考について

5 議事概要

教育長	本日の傍聴者はありません。
教育長	春日井市教育委員会会議規則第6条第2項の規定により、議事録署名人は、浅井委員を指定。
教育長 (報告事項)	コロナの感染が拡大しています。特に児童の陽性者が増え、小学校の臨時休業や学年閉鎖などが多く出ています。教職員の感染者も増えてきました。午前の早い時刻での陽性判定で、早帰りをすることによる保護者の負担が増しています。第6波の早い収束を願っています。 令和4年10月28日、29日に開催されます「第48回全日本教育工学研究協議会全国大会 愛知・春日井大会」のプレ大会を、2月5日に開催しました。当初は市内のホテルを会場に開催を予定していましたが、コロナの感染拡大のため、オンラインでの開催となりました。参加者には、事前に6校（勝川小・藤山台小・出川小・坂下中・藤山台中・高森台中）の実践報告動画を視聴し、質問や感想、意見を事前にフォームに入力してもらいました。「公開校から学ぶディスカッション」では、指導者からの助言や各校のメンバーによる協議などを進めていきました。最後に、東京学芸大学の高橋純先生による総括がありました。参加者は約300名でした。 卒業式の時期が近づき、中学校の卒業式まで3週間あまりです。この時期は生徒指導上の問題が起こりがちですが、現在は各学校とも落ち着いていると把握しています。昨年度同様、簡素化した式ではありますが、感染症対策を万全にし、卒業生にとって感動のある卒業式が行えるよう、今後も万全な体制を取って参ります。 各学校では、令和3年度の取組について評価をし、令和4年度の構想を練っているところです。校長会議などの機会を通して、児童生徒や地域の実態に合った教育活動を進めていくよう、学校経営の重点目標をより具体的に示すよう指示して参ります。 令和3年度は、コロナによって、GIGAスクール構想の前倒しで1人1台端末の整備が進められました。リモートによる家庭学習や会議がおこなわれるなど、児童生徒、教職員にとってICTの活用が進んだ年でした。今後は、1人1台端末配置をいかに使いこなし、本当に子どもたちの学力を付けるのに役立たせることができるかが問われていきます。さまざまな研修を実施し、各校における一層の実践を

進めていかなければなりません。

1 議題

教育長 (1) 春日井市学校保健結核対策委員会規則等の一部を改正する規則について

教育長 採決の結果、全員一致で「資料のとおり」決定。

教育長 (2) 春日井市学校給食運営委員会規程の一部改正について

教育長 採決の結果、全員一致で「資料のとおり」決定。

教育長 (3) 中学校の新しい制服デザインの最終選考について

学校教育課長 中学校の新しい制服デザインの最終選考についてご説明いたします。

本日開催されました総合教育会議において、市長と委員の皆さんが意見交換をしていただきました。その中で、新しく導入するブレザー型の制服は市内統一のデザインという方向性を、市長を始め委員の皆さんからお示しいただきましたので、その方向で進めていきたいと思えます。その上で、まだ決まっていない点がありますので、この教育委員会の場で今後の方向性をお示しいただければありがたいと思えます。

まず1点目として、学校ごとの特色をどうするかということです。制服を市内統一ブレザーにした場合、学校ごとの特色を出す方法として、ネクタイ、リボン、ワッペン、ボタン等を使用する方法があります。一方、制服自体に変化を付ける、例えば、制服にラインを入れる方法ですと、デザイン自体が変わってしまいます。制服そのものはいじらないとした場合、他市町村やメーカーの話によると、ネクタイ、リボン、ボタン等で特色を出すしかないというのが現状です。他市町村の現状として、先行して実施している犬山市と長久手市は、リボンやネクタイの色を変えることによって、各学校の特

色を出しています。一方、一宮市は市内に19中学校あり、特色は特に出す必要はないとし、ネクタイやリボン等特色を出すものは一切ありません。市内統一制服を示すワッペンがありますが、各学校の特色を出すものはありません。そのように判断した一番大きな理由は、保護者負担を考慮したためと聞いています。

参考までに、リボンやネクタイを付加すると、制服の価格が2,000円から3,000円ほど高くなり、それに比較するとワッペンやボタンはもっと安価で付加することができます。

本日の総合教育会議においては、何かしら学校ごとに特色があった方が良いが、その方法は各学校に任せ判断してもらうのが良いというご意見を多くいただきました。価格の点も含め、各学校で特色を出す方法を考えていくという方向性で良いのかを、まずは決めていただければと思います。

教育長

現在、バッグ等で各学校の独自性を出しています。特色を出すものが制服ではなく持ち物であるという違いはありますが、ぱっと見てどこの学校かわかるという制服の独自性をどう考えるかについて、ご意見をいただきたい。

浅井委員

犬山市と長久手市が、制服のリボンやネクタイの色を変えるようになった経緯はなにか。

学校教育課長

学校ごとに特色を出したいという意見が学校からあったためと聞いております。

小塩委員

ぱっと見てどこの学校かわかるようにすると、大きな違いを出す必要があるのですが、それを制服で出そうとすると難しい。もし、明らかな違いを求めるのであれば、教育長がおっしゃったように、バッグ等で出すのも一案だと思う。

地元の人たちに親しんでもらえるような特徴で良いということであれば、ぱっと見てわからなくても、ボタン等のアクセサリのような変化で良いと思う。

竹田委員

男子生徒は基本的に「学ラン」なので、デザインに差はなく、女子生徒の方がラインの数等で違いがあるようなイメージだ。

アイデンティティを持たせることができれば、ボタン等のように遠くから見て分からなくても、何らかの違いがあれば良いと思う。

ネクタイは、夏季はつけないだろう。ボタンが一番穏当ではないかと思う。

大野委員

ボタンは、学校の違いにさほど差がつかないと思う。また、サブバックは、バッグを見ないと学校の違いがわからないし、持っていないときもある。一方、リボンやネクタイは、確かに、その分価格は上がるが、現在の制服より新しい制服の価格のほうが安いのであれば、学校の特色もはっきり出てわかりやすい。また、ブレザーの首もととは、何も着けていないと白色だけになってしまい違和感があるので、やはり、リボンやネクタイを付けた方が良い。

学校教育課長

制服に違いがあった方が良いという意見は皆さん同じでした。ただ、どの程度の違いが必要かどうかについては一度検討します。

では、もう一点について、制服を選考する人は、子供だけではなく、保護者も対象とした方が良いという意見については、前向きに検討したいと思います。

そして、大人が選考する際は、価格帯とか機能性等の情報が必要ではないかというご意見がありました。価格や機能については、制服が購入できる販売店によって異なります。なぜなら、販売店によって素材や機能性、例えば、家で洗えるか、高耐久性かどうか等の違いによるラインナップが様々で、それに応じて価格も上下するからです。

価格は安いもので3万円ぐらいから、高いもので5万円近くまであります。価格差が生じる要因の一つは、ウールの混入率による生地素材の違いで、ウールが50%であれば通常価格ですが、70～80%ですと高くなります。但し、ウール混入率による機能性の違いはあまりありません。

予め生地素材等の最低条件を決め、自由な競争条件を整備しておけば、素材や機能性が異なる様々な価格の商品が販売店ごとに展開されます。つまり、購入する児童生徒側は、どこの店で買うのか、何の機能が必要なのかによって、購入価格は変わってきます。これが現在の状況です。

このことから、新しいブレザーも同じことが当然生じると考えていますので、競争条件を整備することが必要だと思っています。

機能と価格が連動するため、今の段階で、どのような機能や価格の商品が展開されるか分からない以上、保護者の方に投票材料として提供できるのは、デザインによる価格差が中心となります。

今回の5点のうち、デザインBは、パイピングという特殊なアクセントを施していますので、他より2,000円から4,000円ぐらい高くなる可能性がありますので、Bのデザインは高くなるということは、保護者にお伝えできると思います。デザインB以外は、同じような生地で、同じような機能にすれば、おそらく同じ価格になります。今回は、メーカー側に、既存の制服より価格が安くなるようなデザインをお願いしてありますので、たとえデザインBでも、既存の制服価格より安くなります。

児童生徒の意見のみでなく、教員と保護者の意見も聞くかどうかについては、市で早急に考え、案を示したいと思います。また、保護者も投票に参加させるのであれば、デザインによる価格の違いというところについて判断材料として提供したいと思います。

最終選考にあたっては、保護者の意見を何らかの形で聞き取る方向で検討していきます。明日から制服の展示を全学校で順番に開催していきますので、その際に保護者の方からご意見を募るなど、方法については検討してまいります。

教育長

採決の結果、全員一致で「説明のとおり」決定。

○参考資料について

上記のとおり、議事の経過及びその結果を明確にするためにこの会議録を作成し、教育長及び指定された会議録署名人が署名する。

令和4年3月18日

教育長 水田 博和

署名人 浅井 敦臣